

## 教育実習反省会 発表要旨 (No.1)

実習高等学校の区分： 専門系高等学校（総合科学）

### 【1：研究授業を通じて感じたこと】

私は顕微鏡の使い方とオオカナダモの観察について研究授業を行った。授業を通して、時間の区切りや指示の出し方の大切さを実感した。

実験では約40人の生徒が一斉に同じ作業を行うが、特に席の後ろの方への指示が進めるうちに通りにくくなるのが課題だと感じた。そこで、実験の操作を区切ってところどころで全員の進度をそろえることで、今やるべきこと、この操作で身につけるべきことというのが明確になり効率的に授業を行うことができた。

また、指示を出すときや大切なことを伝えたい時は、声だけでなく視点で訴えることも大切だと分かった。例えば観察の際には気づいたことを口頭で言うだけでなく、文字に残しておくにより伝わりやすくなると感じた。

今回はワークシートを作成し、その流れに沿った授業を行ったが、ワークシートと板書する位置はリンクさせると、今どの部分をしているのか一瞬で目につきやすいと感じた。

授業全体を通して、クラスによって様々な色があり、授業展開に正解はないのだと感じた。

生徒の実態をしっかり掴み、生徒と授業を作っていくという気持ちで授業することが大切である。

### 【2：生徒指導を通じて感じたこと】

生徒と積極的に関わる大切さを感じた。

いろんなクラスを回って自分の大学生活の話や生徒との対話とする時間を頂いたおかげで、多くの生徒と対話することができた。自分の進路について考える生徒が多い中で、実習生、または大学生として高校生と対話する貴重な機会を頂き、進路の話や生徒自身の相談を聞くことで生徒との距離を縮めることができた。2週間という期間で生徒の実態をつかむのは難しかったが、掃除中や放課後の時間を利用し、少しでも生徒のことを理解しようと試みた。生徒と関わるうえで、人数分の生徒の特色があり、対応も様々であると感じた。全員の生徒の特性を理解するには時間がかかるが、積極的なコミュニケーションを通じて信頼を深めることが一人一人に合った生徒指導をする第一歩になるのだと感じた。

### 【3：教育実習を終えて一番学んだこと】

教材研究の大切さだ。

自分の中では頑張ったと思っていたが、指導教員の先生の教科書やワークシートには、自分よりはるかに多くのメモがびっしりと書かれており、自分の教材研究の足りなさを実感した。中にはここで生徒にこんな豆知識を話す、なども詳細にかかれており、実際に授業では生徒もわくわくして授業を受けていた。

生徒にとって学問の入り口に立つ教員ができることの一つに、その教科の「魅力を伝える」ことが挙げられると考える。自分にはその部分がまだ足りず、教材研究の工夫をもう少しできたらよかったと感じた。教育実習では、各教科の先生方の教科、科目、学問への思いをたくさん見させていただくことができたと感じている。

#### 【4：その他（伝えたい事項や要望など）】

教育実習では指導案を作り授業をするというのに重きを置きがちだったが、先生方がどんな授業をどんな思いで行っているのかを目の当たりにできる数少ない機会だと思う。多くの先生の授業を見学させてもらい、自分ならどう授業をしようかと引き出しを増やすことも、とても大切だと思った。

2週間は長いようで本当に短く、生徒や先生と話をできる時間も限られている。2週間で吸収できることを全部吸収するつもりで対話し、濃い実習にできるとよいと思う。

## 教育実習反省会 発表要旨 (No.2)

実習高等学校の区分：普通科高等学校

### 【1：研究授業を通じて感じたこと】

研究授業自体は、多くの先生方が自分の授業を観察しているというだけで、普段の授業と何か特別変わったわけではなかった。重要なことは、研究授業に至るまでの毎回の授業をどれだけしっかり復習できているかということ。指導教員からの授業の感想やアドバイス、自分の授業を動画で撮影をしておくことや、生徒たちに授業後のワークシートを提出してもらうことで、自分の授業を振り返り、どうすればもっとより良い授業が作れるのかを考えなくてはならない。

理科という教科は知識のアップデートが必要な教科であり、中学時代に学んだ内容をもとに基礎を学び、基礎の内容を発展させ、専門を学ぶといった流れが確立されていることがよくわかった。授業を作るときには、その知識の流れを確認させてあげることがスムーズな理解へとつながるのだと感じた。

また、授業の時には、板書の文字やどこに何を板書するのか、声の大きさや話す速度、理解しやすい言葉を選んで話すなど気をつけるべき点が多くあるので、しっかりイメージトレーニングをしてから研究授業・授業をすることが成功に繋がると感じた。

### 【2：生徒指導を通じて感じたこと】

生徒指導を行う場面はあまりなかったが、朝の時間や放課後、授業時間以外の廊下ですれ違う時など、生徒から挨拶をしてくれる場面が非常に多く、とてもよい学校だと感じた。また、授業時間になる前までにはしっかり着席もしていた。

ただ、クラスの何人かの生徒は、提出物を期限までに出さなかったり、掃除をサボっていたりしており、これについてはホームルーム担当の先生が怒るというよりも生徒にその行動が良い行動なのかを問いかけ、考えさせていた。「～しなさい」と命令のような形で伝えるよりも、生徒自身に考えさせることで、何が良くないことでどうしていくべきなのかを学ばせているように感じた。

### 【3：教育実習を終えて一番学んだこと】

教育実習を終えて一番学んだことは、授業準備の大切さである。教える単元や内容はもちろんのことながら完璧に理解しておく必要があり、また、その単元や内容に繋がる知識（それまでに学んだ基礎的な内容やその後に学ぶ発展的な内容）を網羅しておく必要もある。知識

のアップデートをスムーズに行うことの手助けをしっかりと授業でできればわかりやすい授業になると学んだ。

また、母校には一貫クラス、特進クラス、普通クラスとレベル分けされており、そのクラスの中でもさらにレベル分けが行われている。なので同じ内容を教えるにしても理解に時間のかかりそうなクラスには多くの時間を割いたり、別のアプローチをして内容に繋げる必要があったり、できるクラスはより発展的な内容を教えたりと、生徒の学力に対応した教え方をしなくてはならない。

ただ、年間の授業時間は決まっているので、その中でこのクラスの生徒にはどこまで教えるべきなのか、そのためにはどのような授業の構成を立てれば良いのか考え、実行するためにも、しっかりと授業準備をすること、その大切さを学んだ。

## 教育実習反省会 発表要旨 (No.3)

実習高等学校の区分： 専門系高等学校（農業）

### 【1：研究授業を通じて感じたこと】

研究授業を通じて感じたことは、自分が考えている方向に生徒を導いて行くのが難しいということです。自分の中では分かりやすく説明しているようでも、生徒にとっては難しいと感じていることが多かったり、自分が答えてほしいものがあるけど、それが生徒からは出てこなかったりなどがあり、そう感じた。

その状況を踏まえて、生徒への伝えかたを変えたり、適宜追加の説明をしたりなど臨機応変に対応する必要があると感じた。

### 【2：生徒指導を通じて感じたこと】

自分が高校生の時とは生徒指導の形が変わっているように感じた。当時は、なにか問題が起こった時に生徒指導部の先生が出てきて話や注意をするというイメージだった。ただ、実際には教科での授業だけでなく、部活や普段の生活から教員全員で取り組んでいるものだというを実感した。あいさつや服装などの小さなことからもちろんのこと、現代の生徒はスマホ世代であり、その機器の機の使い方だったり、SNS 上でのやり取りの注意だったり授業の中で教えていた。

また、人の気持ちを読み取ることが苦手な生徒が増えているという現状があると聞き、その人の気持ちを読み取る力を身に付けさせるという生徒指導も必要になってくると感じた。

### 【3：教育実習を終えて一番学んだこと】

教育実習を終えて一番学んだことは、教えるということはただ知識を教えるだけではないということだ。農業高校ではプロジェクト学習というものがあり、各々のグループで考えた研究内容に関して活動を行う。その内容を考える際には、今までで理解していることから「こうなるからこうなるかもしれない」、「これはこうだから、こうしてみたらどうなるだろうか」というように行う。そのため、座学や実習で最初は一方向的に知識を教えるだけではあるが、その知識の活かし方、使い方もしっかりと教える必要があると学んだ。

## 教育実習反省会 発表要旨 (No.4)

実習高等学校の区分： 普通科高等学校

### 【1：研究授業を通じて感じたこと】

自分の研究授業ではグループ活動を中心とした授業計画を立てて、授業を行いました。授業をみている人が生徒に加えて15名の先生方も評価しに来てもらっていたのでとても緊張感がありました。授業進行も緊張からか早口になってしまい、想定よりもかなり早いものになってしまいました。研究授業の前までに見えてきた課題として、声の使い方と視線が指摘されていたので意識して臨いましたが、途中からうまく授業を終わらす方向に変わっていったため、授業後は指導の先生からも焦りを指摘されました。

研究授業を終えて、感じたことは、いくら準備して臨んでも、教師としての経験の差が出るなど感じました。授業内容とは別で、段取りやトークスキルなど経験でしか補えないような部分があったと感じましたし、指導してもらった先生からも同じような言葉をいただきました。

### 【2：生徒指導を通じて感じたこと】

2週間では細かいところまでは考えることはできませんでした。しかし、生徒と先生の関係が良好で、ある程度近くないと生徒は耳を向けてくれないのではないかと感じました。自分は最初の1週間は授業をすることがなかったため、昼食は一緒に食べる、部活動や放課後に積極的に関わりに行くなど、担当クラスの生徒と関わる時間を増やすことを大切にしていたので2週間の実習が終わるころにはかなり仲良くなったと感じられるほどになりました。生徒たちは「先生」というよりも「お兄さん」みたいな感じで接してくれたのかなと思い、それがいいことであるとはいえませんが、他の実習生で担当クラスの生徒らと関わる時間が十分に取れず、信頼されているのか、もしくは相手にされているのか分からないなど苦しんでいる話を聞いていたので指導を行う前提として、生徒からの信頼の獲得は必要だと感じました。

### 【3：教育実習を終えて一番学んだこと】

生徒は意外と自分達でなんとか学んでいけるということです。自分は研究授業を含め、最後まで生徒が100%授業内容を理解してもらえる授業づくりを意識して取り組んできました。しかし、これを継続的に続けるのは経験値や体力的に限界があるなど気づかされ、生徒に理解してもらった授業づくりだけでなく、興味や自主性を引き出せるような授業を目指すことも必要であると感じられました。また、実習生が思うよりも、生徒は授業内容を理解してし、知識をつけていることに気づきました。高校生にもなり自立性も芽生えつつある中、生徒を信じ指導にあたるということは先生になる上で必要であるなど思いました。

## 教育実習反省会 発表要旨 (No.5)

実習高等学校の区分： 普通科高等学校

### 【1：研究授業を通じて感じたこと】

研究授業を通して、生徒の意見を引き出す難しさを感じた。また、生徒の答えが自分の求める答えとは異なっている場合の対応の仕方は、事前に生徒から出てきそうな答えを考えておき、それに対する返答まで考えておくことでよりスムーズに授業を行うことができたと考える。

また、研究授業に適している実験のような内容とそうではない座学の内容があるということを学んだ。

### 【2：生徒指導を通じて感じたこと】

生徒とのコミュニケーションを積極的にとっていくことが重要だと感じた。2週間という短い時間の中で生徒との距離を縮めていくことがかなり難しいと感じた。

また、生徒との距離が指導を行う上でも、授業を進行していくうえでもとても重要な点の一つであると感じた。実際に、1週目に授業を行った時よりも2週目に授業を行った時の方が生徒もよりアクティブに授業に参加してくれていたため、生徒との距離は重要であるということ学んだ。

### 【3：教育実習を終えて一番学んだこと】

教育実習を通して一番学んだことは、自分の学んできた環境とは大きく異なっていることだ。教員の板書したことや言ったことをノートに取ることをだけを行い、授業を受けていたが、現在は生徒が主体となって授業が進行されるため、どのような問いかけを行うことで授業を上手く進行していくことができるかを考えながら授業作りしていかなければいけないということ学んだ。

自分自身の実体験などを活かせる場面が少なくなってきたと感じるため、その場に適応する力も重要になってくると感じた。